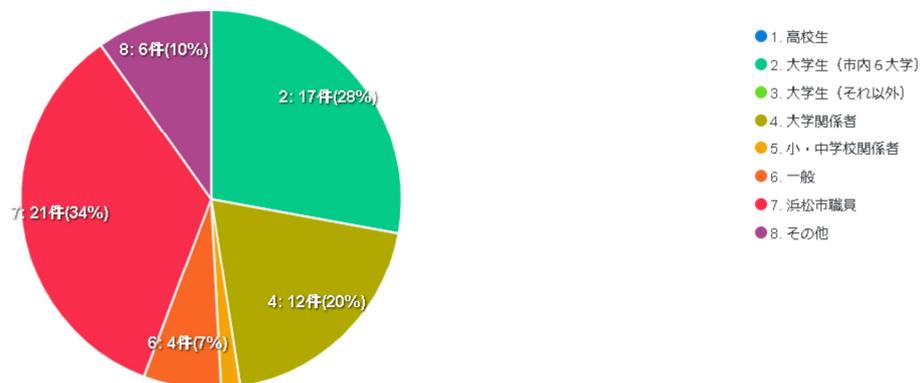
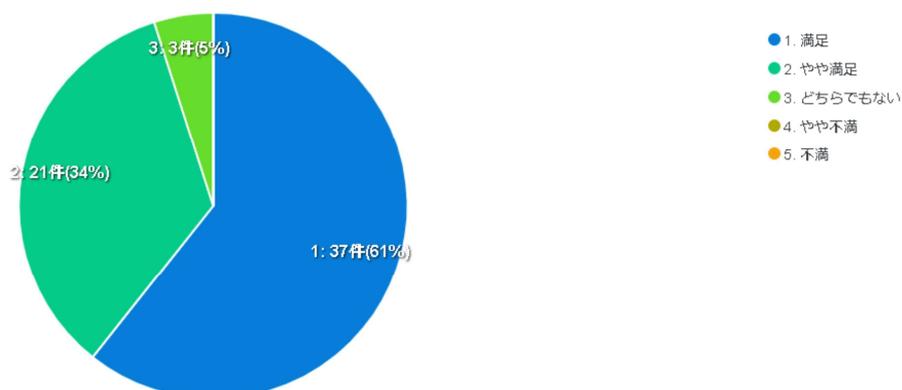


## 令和4年度「浜松市と大学との連携事業 成果報告会」アンケート結果

## 1. あなたの所属について教えてください。(主なもの1つ)



## 2. 本日の報告会の内容にご満足いただけましたか。



## &lt;大学生&gt;

- 実際行った学びを披露できてよかった。
- 他の大学の活動を知ることができた。 ○他大学の様々な取り組みを聞いた。
- 直接他の大学が行う講座の内容を体験できたが、持ち時間が短く、参加していただいた方々に自分たちの講座を体験していただく余裕はなかった。
- 他学校の講座内容も知ることができ、自分たちの講座にも生かせるような学びがあった。
- 他大学の企画を知ることができ、その企画内容がどこも面白そうなものばかりだった。
- いろいろな大学での取り組みについて聞くことができ、有意義な時間を過ごせた。
- 自分達の成果を発表することができたり、他の大学生が行っていることを知ることができたりした。
- 大学生と地域とのつながりはとても大切だと気づくことができた。
- 他大学が行っている活動を学ぶことができた。昨年よりも楽しく報告したり聞いたりできたし、貴重な発表の機会となり、他の方から学ぶことも多かった。
- 創意工夫を知れた。 ○他大学の活動内容や発表の魅せ方を知れた。
- 様々な取り組みについて知ることができてよかった。 ○楽しい内容が多かった。

#### <大学関係者>

- 学生が行った事業に対する市民の皆様の反応が分かり、学生が事業を行うことの意義を再確認できた。
- 数年ぶりの対面開催で、参加型で各大学それぞれの講座内容を知ることができた。
- 各大学の実績報告はすごくよかった。 ○大学生による講座を体験できた。
- 聴講する側も受け身ではなく、参加実践型の内容で、理解が深まった。認知症予防体操やクイズなども全体でやれたらもっとよかった。でも、とても楽しかった。
- 開催したすべての協働センター職員から一言感想や労いをもらえると、学生にとっては気持ち的に報われる。
- 各団体がどのような講座を実施したかよく分かった。各大学ならではの講座もあり、参考になった。
- 講座内容を体験的に知ることができるように工夫されていた。一方で大学生にとっては、他大学の事情を詳しく知る機会になるとよいのではないかと思う。講座ごとの来客数とその年齢層、集客方法(講座によっては集客のために様々な手段で受講者を集めたと意見交流会で聞いた)、施設までの移動手段、講座を準備するまでにかかった時間や人数などのコスト、教員の支援の有無、準備における活動場所の有無、単位認定の有無など、実働レベルでの違いが認識できると、大学相互理解のきっかけになりそう。
- 音声トラブルで学生が大変そうであった。
- マイクの本数などホールの音響設備をもう少し充実した方がよい
- 他大学の報告を聞くことができた。 ○様々な事業内容を知ることができた。

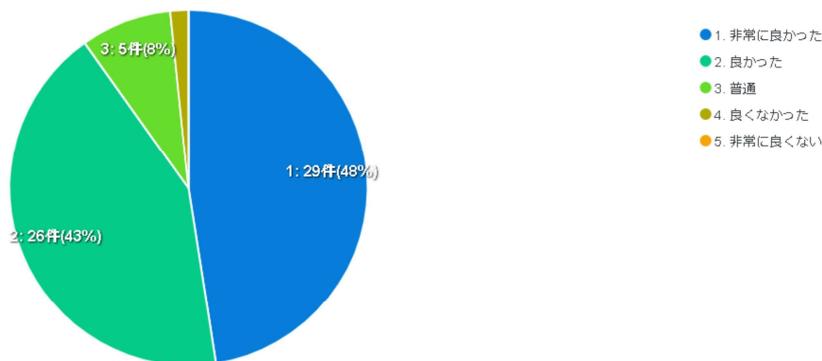
#### <浜松市職員>

- 大学生による成果発表会を、実際に体感することができた。○各々の講座が深掘りできてよかった。
- 講座内容が確認できてよかった。 ○体験がよい。 ○大学生のやる気が感じられた。
- 大学生が講座の一部を実際に披露してくれたのは、よかった。 ○実技の時間は不要かと思う。
- 実際の講座の様子などを実演していただき、イメージできた。
- 各大学の発表者が分かりやすいプレゼンを考えてくれて、講座当日の雰囲気伝わってきた。また、講座を実施したセンターの感謝の気持ちが大学生に伝わってきてよかったと思う。
- 学生の皆さんが真剣に分かりやすく報告してくれた。 ○充実していた。
- 成果報告が参考になった。 ○大学(学生)側の思いが分かった。
- 特に問題はないが、発表方法や態度にもう少し工夫があったらよいと感じた。
- 大学生の皆さんが、学業で忙しい中、浜松市と連携して地域の子供達等のために活躍している姿を見て感動した。
- オンラインではなく対面での報告会ができてよかった。また、スタッフの準備は大変だと思うが会場の様子をズーム配信できるとなるとよい。
- 知らないことが知れた。話し方が上手でいつの間に惹きつけられて入り込んでいた。
- 学生と直接交流でき、生の声を聞くことができた。 ○会場の雰囲気が少しだけ堅苦しい気がした。
- オンラインでの報告会は音声途切れて話の内容が聞きにくかったり、分かりにくかったりしたが、久しぶりに全体が集まった報告会は聞きやすく、各大学の内容がとても分かりやすかったと思う。また、実技もありとても実際の講座の様子も分かった。
- もう少し課題や改善点について報告に盛り込んでもらえるとよかった。

<一般>

- 一堂に会して発表を行ったので、大学生の講座に対しての思い入れや熱意が直に伝わってきて、大変興味深く聞かせていただいた。どの大学も、発表の仕方に工夫を凝らして臨んでいて、分かりやすくしかも楽しく聞くことができ、時間があっという間に過ぎた。
- 講座数が豊富で、学生の工夫がよく分かり、今後は出前講座を申請、検討したい内容があった。
- 大学生のみなさんの発表が充実していた。実践を交えての発表も多く、分かりやすかった。
- 対面開催のよさを実感した。講座のねらいや成果が具体的にまとめられていたので、とても聞きやすかった。フロアからの質問に丁寧に答える姿勢に心を打たれた。参加型発表を取り入れたことで学生、大学職員、協働センター職員、一般参加者全員で連携事業の意義を共有できたように思う。
- 市内の大学生が専門的知識や技能を積極的に市民に発信する姿勢に感動した。浜松の財産だと感じた。
- 開催講座内容がよく理解できた。 ○面白かった。
- 浜松市内全ての大学が参加して報告会が開催されていることに価値があると思う。各大学の特色や学習の成果を地域に還元されている姿を知ることができ大変参考になった。
- なぜ、その課題を選出したのか？今後は、こうしたいという展望が知りたかった。
- 大学生と交流ができて、新しい発見がたくさんあった。
- 学生と浜松市が連携して、ためになる講座を何年も続けていることに感動した。
- 大学生の皆様の発表等、とても感動した。子供たちが喜ぶので、ぜひ多く開催してほしい。
- 聴き手を巻き込んでの発表でよいプレゼンが多かったが、「もっとこうすればよいのに」とも感じた。大学生だから分かっていると思わずに、報告会の数ヶ月前に、紙一枚でいいので、プレゼンの注意点を知らせておくのも方法の一つ。ポイントは「あの広い会場で、聴き手により理解してもらうためには」ということ。気になった点は
  - ①パワポのフォントが小さく色が明確に見えない、何をどうしたのか、効果はこうだ、という流れが弱い。
  - ②演者の声がよく通らない。もっと話しかける姿勢がほしい。
- 講座内容は、今までは簡単な文章でのみ判断していた。今回の成果報告会を聞くことで、かなり理解できた。講座開催前に、このような説明会や講座の様子を動画で見ることができれば、多くの人が申し込みしやすいと感じた。

### 3. 本日の意見交流会はいかがでしたか。



#### <大学生>

- 意見交換をして人とのつながりができた。 ○自分以外の視点から話を聞くことができた。
- 時々体を動かすこともあり、楽しめた。
- 市の職員の方や講座を行う大学生と、自分たちや浜松市の課題点を話し合えた。
- 大学生と大人の方を含めて意見交流をしたことで、様々な角度からの意見を聞くことができた。ただ、大学生側が行うことができる改善点はほとんどなかった。
- 普段ではなかなか関わることが少ない方々の意見を聞くことができた。
- 協働センターの方とお話するよい機会だった。 ○なかなか話す機会がないので、貴重な場となった。
- 大学生はもちろん、普段お世話になっている協働センターの方や地域の方とお話する機会は少ないので、貴重な時間となった。
- 意見交流の時間では、いろいろな人の意見を聞き、困っていることや、やってみたいことを聞くことができた。
- 市の職員と大学生が意見交換することができる貴重な体験となった。
- 幅広い年齢層、異なる立場の方と議論でき、盛り上がった。
- 様々な立場からの要望や意見が聞けた。 ○地域の方々の生の声を聞けた。
- たくさんの方と関わることができ、とてもいい機会になった。
- 壇上に立つことがなかった分、意見交流会の中で説明ができた。 ○勉強になった。

#### <大学関係者>

- 学生が発表する機会をいただき、学生自身が行ったことの意義を確認できたと思う。また、学生も様々な大学の学生との交流を通して、刺激を受けたと感じた。
- 他大学の学生や協働センターの方から直接お話しや意見を伺えた。
- グループ内に事業参加の学生、一般、協働センター、大学が混ざっているので貴重な機会だった。
- 各々、各方面に確認したいことができてよかったが、もう少し時間が欲しかった。
- 大学生の意見が聞けた。
- グループ構成を工夫してくれていて、他大学、世代を超えた方々との話ができてよかった。自由に屈託のない意見を言えることがよかった。ただ、意見交流会のテーマを口頭で示すだけでなくスクリーンに表示してくれると分かりやすかった。模造紙に何を書いていいのかわからず、若干苦慮した。
- 最初の実績報告を聴く段階からグループごとのシマを作っておいてもよかった。そのほうがメンバー

の顔が最初から見えるので。今回は座席の間隔が窮屈だった。

- このような機会でないとお話できない方とお話することができた。
- 教員が講座の内容を決めて学生が実働をするという大学もあるそうで、学生主体の企画ではないものもあると知り驚いた。大学によって、本講座の意義がまったく異なるであろうことが推測された。こうした実態を知ることができたのもよかった。
- 時間もないため、自己紹介や感想を述べる程度で、グループワークのように評価や課題発表までまとめられなかった。
- 欠席や早退があり4人だけになった。普段話すことのない方々とお話できた。
- 意見が聞けた。
- 具体的に討論できた。他大学生の考え方に触れることができた。

#### <浜松市職員>

- 浜松にいる大学生に活気があることを知れた。
- 直接意見や質疑できる機会があるとよりブラッシュアップできる。 ○新たな試みでいいと思う。
- 学生達の貴重な意見を聞くことができた。 ○学生の意見が聞けて参考になった。
- いろいろな立場に関わりを持つ方の意見が聞けてよかった。 ○異業種異年齢との交流ができた。
- 参加者のみなさんが大変積極的で会話が弾んだ。
- 一緒になった方は皆さんボランティア的に活動されているようで、貴重な意見を伺うことができた。
- それぞれの立場で何を考えているのか分かり、有意義な時間だった。
- 大学生と話すことは普段ないので、よい機会だと思った。
- 学生や教員、地域の人など、様々な立場の人から事業に対して思っていることを聞くことができた。
- 班になって、いろいろな立場の方々と話ができてよかった。
- 学生、大学教授、一般市民、自治体など、ジャンルの違う関係者がそれぞれの視点から意見が出されてよかった。
- 社会教育委員、民生・児童委員などから大学連携事業に期待するポイントを聞くことができた。
- 立場や年代の違う人の意見を聞くことができて大いに参考になった。
- 普段、他の施設や学生と話す機会がなかったので貴重な時間となった。
- 普段接することができない大学生や大学関係職員、他地区のコミュニティ・スクール運営委員などと貴重な意見交換ができた。
- 大学生から課題等聞くことができた ○学生の方と直接話ができてよかった。
- 時間が短かった。 ○時間的にも短くて、残念だった。

#### <一般>

- グループの構成が、いろいろな立場の人を混ぜてあったのが、とてもよかった。大学生からは講座に寄せる思いや工夫などを直接聞くことができたし、協働センターの担当者の話も、チラシを見て参加した方の感想も、興味深かった。様々な立場からの話を直接聞くことができ、皆が同じ会場にいることが活かされていたと感じる。
- 少人数なので、個々の意見を述べやすかった。より細かい点の気づきがあった。

- グループの人数、メンバー構成のバランスがよく、だれもが気負わず意見交換ができたように思う。  
時間が足りないくらいだった。
- 進行の仕方が十分に理解されないまま始まった感じで、十分に意見交換ができたようには思わなかった。
- 立場の違う人たちとの意見交換は、連携事業の効果と課題が見えた。
- 当事者である大学生や市職員、協働センター職員の本音や考え方を忌憚なく聞くことができてよかった。若い方と話す刺激になる。
- 会場が広く、隣のグループと近かったので、発言者の発言が聞き取りにくかった。
- いろいろな階層の人と会話ができた。 ○いろいろな人と出会えた。
- いろいろな層の人と交流するのは新鮮でよい。時間の無さと周りの騒音?はやむを得ないのかも知れない。
- 年代の違いがあり、考え方もいろいろで、交流できてよかった。
- 講座を開催された大学生の話
  - ①思いの外、講座参加者が少なかった。(静岡大学：競技プログラミング)
  - ②若者向けにいろいろ提案を考えて来たのに、年配者が来られた(浜松学院大学：Walking Trip Kanzanji)
- ↓
- ①講座紹介はA4一枚のチラシなので、もし小学校低学年を主体とするならば、子供たちに分かる言葉、興味を引く言葉や絵が必要。競技プログラミングという言葉が表示されれば、かなりのレベルの人しか参加できないと感じるので、チラシの作り方に力を注いでいきたい。
- ②若者を主体にするには、チラシを若者にとどける方法がポイント。協働センターにチラシを置くだけでは、高齢者にしか届かない。チラシに二次元バーコードを付け、講座内容を、動画で紹介する。浜松市や協働センターの皆さんのやることは、まだいっぱいあると思う。やり方が甘い。
- いろいろな職種の方やお立場の方が入り混じったグループになっていたのも、自分の知らないところで活躍されておられる方の存在を知るよい機会となった。また、これからの社会を担う学生さんたちに、今の社会を築いて来られた先輩方からのアドバイスが送られ、ただ一方的に話しで終わりの発表会形式ではなく、大きく得るものがあった意見交流会だと思った。
- 学生さんの話を聞いて、工夫をこらしていることがよく分かった。

#### 4. 本日の成果報告会(意見交流会も含む)で印象に残ったこと、感想、ご意見等ございましたら、自由にお書きください。

<大学生>

- 普段年配の方たちと市のことについて話し合うという機会はないので、新鮮でよかった。これからも自分のサークルの活動を積極的に続けていこうと思った。
- 浜松市のホームページに、大学との連携講座が掲載されているにも関わらず、そのことを知らない人が多かった。もっと多くの市民に広めて行く必要があると感じた。
- 初めて参加したが、思っていたより楽しく、参加してよかったと思った。
- 市内で様々な交流会があることを知り、とてもよい活動で魅力的であると思った。
- どの取り組みも学生主体となり、地域の方と交流を持っていると感じ、今後も続けていきたいと感じ

た。

- 様々な立場の人が集まって意見交流をすると、新たな発見が多いため、非常に大切であると感じた。
- 体験型の報告会が多く、より身につきやすく覚えやすいと感じた。
- アイスブレイクが面白かった。

#### <大学関係者>

- 静岡文化芸術大学の皆さんの発表が素晴らしかった。人に伝えるチカラは大学生でも、とても高いと思ひ、刺激を受けた。
- 成果報告会の時間では丁度よかったが、実績報告の時間が多少長く、意見交換の時間が短かった。
- 晝馬委員長からの「共に学び合い、支え合うことで、世代を超えたよい循環が生まれ、地域づくりとなること。若い力は社会を変えられること」の言葉に共鳴した。
- 発表が上手な学生が多く、素晴らしかったと思う。可能な限りたくさんの報告が聞けると嬉しく思うので、一つの発表時間が少なくなっても、たくさんの報告を聞きたい。
- 意見交流会にて、本事業がカリキュラムとして位置付けられている大学とそうでない大学とがあることが分かった。また、大学生の可処分時間の多寡も、大学や学科等によってかなり異なるようだった。そのことが共有されていると、よりよい相互理解につながると思った。
- 各発表は、趣向がこらしてあってよかった。○学生たちのアウトプット力に感銘を受けた。
- コロナ禍で多くがWEBでのやり取りになり、自分から外に出て学ぶ機会を失ったことで受け身の学生ばかりが増えたのではないかと危惧していたが、今日の学生たちのプレゼンテーションを聞いて、未来は捨てたものじゃない、明るいと感じられた。
- 実演はよいが、2時間位の報告会としてほしい。

#### <浜松市職員>

- 学生の貴重なアウトプットの間であった。
- 学生を指導した教授等の声や意見が聞けるとよりよかった
- 学生が積極的に講座の内容を考えて地域へ還元しようとしていることが伝わってきた。
- 今年度は抽選に漏れて講座を実施できなかった。大学生の方が一生懸命やっているところがとても印象に残り、来年度はぜひ、やってみたいと思った。
- 発表時間について持ち時間を決めた方が計画しやすいと思うが、無理に時間を潰す必要はないと思う。
- 事前に報告書をデータで送っていただきありがたかった。
- パワーポイントによる報告だけでなく、バレーボールの実演や参加者もぶちまりに合わせて身体を動かしたり、クイズがあったりして、とても工夫がされている報告会だった。
- 学生さんの活気、明るい未来を感じた！人前で物怖じせず話す姿を、すごいなと思った。この仕事に就かなかつたら知らないことだったので、認知度があまりないのがもったいないと思った。
- 顔を合わせて話し合うことの大切さを改めて感じた。○意見交流会の司会を決めた方がいい。
- とても貴重な機会だった。ありがとうございました。○創意工夫されているのがよかった。
- 講師をされた大学生に、今後も気軽に協働センターを活用していただきたい。

#### <一般>

- いろいろ大変な状況の中、発表会を開催していただきありがとうございました。
- 有意義な時間を過ごすことができた。
- どの大学の学生さんも、熱心に講座開催に取り組んでいることが発表から感じられた。
- さすが大学生、プレゼンの仕方が上手だった。
- ユニバーサルスポーツとしての「チャレンジバレーボール」の実演は楽しかった。
- 報告は、体験型が多く工夫されていた。
- どの大学の発表も工夫を凝らしており大変素晴らしかった。ただ、時間の制約や、授業やゼミで取り組んでいる or サークルで取り組んでいるなど、環境が異なるため、大学生の発表にどこまでを求めるかは難しいところだが、本日の発表は成果報告というより実施内容報告になっていると感じた。もっと連携事業に携わってみて、大学生自身が考えたことや工夫したこと、難しいと感じたこと、参加者にこうなってほしいと思っていること等をお話いただけると、より内容の濃い成果報告会になると感じた。
- 児童が興味を持ちそうな講座、高齢者向けで身体を動かす講座等、地区に展開したいものがあった。
- 大学生がこのように、たくさん参加しているとは思わなかった。
- このような規模で開催する為には、事前の準備がものすごく大変かと思う。進行もスムーズだったと感じた。面白い時間を過ごすことができた。ありがとうございました。
- 大学生はヤル気がいっぱい、小学校に来てほしいと思う講座がいっぱいある。小学校では、平日の8時～14時頃まででないで開催してもらえないが、大学生は授業があり、講座を開催できるのが土・日曜日か夏休みであり、日程がなかなか合わない。講座開催の日程をなんとか工夫してほしい。
- 成果報告会を聞くことができ、また意見交流会を実施していただき、大変よかった。続けてほしい。ありがとうございました。
- 学生さんの報告を聞く時間は充分に感じた。意見交流会は少し短く感じた。短い時間の中でも得られたものがあつたので、少しもったいないという印象。発表者の個人のスキルもあるので無理は言えませんが、聞く側・見る側・体験する側にどんな方法ならば効果的に伝えたいことが届くのか、その工夫を考えるべきではなかっただろうか、と学生さんにお話してくださる方がいて、このやり取りが、とても素晴らしいものと感じた。報告会をよりよいものとしてステップアップしていくには、必要な課題となるのではないかと。今後の変化（成長）もまた楽しみの一つとして、また参加していきたい。
- バレーボール、読み聞かせ、認知、AEDなど大学生がいろいろと考えて、発表してくれたことを大変うれしく思う。
- どこの学生さんの発表も、とてもよかった。楽しく学べた。 ○年齢がいろいろでよい。
- 一番楽しかったのは、「チャレンジバレーボール」と「お芝居プロジェクト」。

**5. 来年度以降「浜松市と大学との連携事業」においてどのような講座を希望されますか。また大学生は、どんな講座を開催してみたいですか。**

＜大学生＞

- 子どもたちと高齢者の広い年代を一緒に対象とする講座。交流の場に行けるようなもの。
- 今年度に引き続き、工作教室の開催を希望したいと思う。
- 浜松市にとって効果的な講座を実施したいと思う。具体的には、浜松市が課題としていることをテーマとして挙げ、市民と一緒に考えていく講座を開催できたらいいと思う。
- 医療についてより多くの人に知ってもらいたい。具体的には認知症、スポーツを行い健康的な生活をつくることなどを知ってもらえる講座。
- 高齢者×子ども×大学生の企画。

＜大学関係者＞

- 学生が何をしたいかコミュニケーションをとり、考えていきたいと思う。
- 大学間の連携講座。
- 各大学のメニュー数を広げるためには、協働センター側から大学に対して、「こんな講座をやってほしい」といったアクションを起こしてもらってもよい。具体的には、大学の地域連携・貢献部署の担当職員や協働センターのコミュニティ担当職員の名簿、対象エリアの協働センターの小中学校がリスト化されたものがあると利用価値がある。今回は、コミュニティ・スクール担当者や老人クラブの方々もいて交流が深まった。
- 大学側は事務局の地域連携・貢献の担当職員が学内の教員や学生にこれまで以上に働きかけることが大切。
- 学生による講座は、通常の講座と比べて、講師役のスタッフの数が手厚く確保できるという強みを生かして、創作活動などでは受講者への応対ができる可能性を秘めている。
- 単一協働センターの対象者だけでは人数が集まらないケースも散見されるので、応募数が低調だった場合には、迅速に対象学年の幅を広げたり、近隣の協働センターと相互連携して、受講者を確保したりしてもらいたい。
- 偏りが出ないよう、幅広い分野の講座があるとよい。美術デザイン系や、医療・健康・福祉系など。
- 地域に広がるような講座。どの年代の方も幸せになれるように。

＜浜松市職員＞

- 学生は移動手段の制限があるため難しいかもしれないが、できれば開催可能施設の制限をなくしてもらいたい。
- コグニサイズ、書き初め ○ボッチャ体験教室、チャレンジバレーボール、お芝居プロジェクト
- 健康に関する講座の他、分かりやすい古典文学や落語などの伝統文化の理解が進む講座も楽しみ。
- 協働センターの利用者は高齢者が多いので、違う層の利用者と接点を持ちたい。
- 現行と同じでよいが、講座中に学生達と地域・受講生の対話（感想を聞く）の時間を設けられると今後につながると思う。
- 地域の子どもから高齢者まで、広い世代を対象にした講座。（世代間交流につながるものなど）

- 子供達が持っている才能を伸ばしてくれるものや、自己表現を上手くできるような講座。
- 小学生、中学生向けのスポーツ系とサイエンス系の講座がもっとあるとよい。
- SNSの使い方・DTM（ガレバン）の使い方・ブルースギター講座
- 具体的な講座希望はさらっと出てこないが、この連携事業をもっと認知されるよう、浜松のイメージアップや活気につながってほしい。小学校や中学校の部活動等でも学生との交流があればいい。
- 大学生と地域の子どもたちがふれあうことができるもの。
- 大学生が学んでいる内容で市民が関心のあること。 ○スマホ講座 ○ドローン
- もう少し山間部まで来ていただけると嬉しい。
- 利用者層の一番少ない、高校生や大学生が参加してもらえそうな講座。
- 地域と連携できる事業。

<一般>

- 親子参加の食育講座。 ○科学や工作等子どもが作成できる講座。
- 障害のある人も気軽に参加できる講座。
- 本年度のような講座を充実させてくれたらよい。
- 小中学生対象講座
  - 兄弟数の少ない子どもたちに講座の中で「学んだ結果が今の姿なのだ」というロールモデルの姿を小中学生に示せる講座を期待する。
- プログラミング講座は自分がその分野に疎いこともあり、興味が湧いた。
- 児童向け：科学系の体験講座
  - 高齢者向け：簡単な頭の体操
- 大学で習った授業を平易にかみくだいた講座があったらおもしろい。
- スポーツ・科学・CPU 関連
- すでにある講座ですが、もっと防災について体験できるものが増えるといい。防災はどれだけ訓練していても、実際に災害が起こると想定外のことが多い。また、被災すると考え方は受け身になりがち。世代ごとに、被災した時に活躍できることは何か。そういった考えを持つことも大切ではないか。また、日本文化や昔遊びに触れる体験講座などで、子どもと高齢者が一緒になって参加できるものもよいと思う。今回の報告会の中で認知症予防講座も高齢者が対象でしたが、その中に小中学生が入っても面白いのではないか。
- 今回の発表が協働センターで、講座となって開催してもらえたら嬉しい。
- 地震に備えて、どう行動したらいいか等、身近に起こりうることについて。
- 詐欺にあわないようにするためにどうしたらよいかを学べる講座。
- 浜松の企業との連携がとれるともっとよい。 ○楽しく、また知識も得られる講座。

## 6. 浜松市内にある6大学の学生に、どんなことを期待しますか。

### <大学生>

- より多くの人に、知ってもらえること。
- 積極的に講座に参加してもらいたいと思う。
- それぞれの大学の特徴を生かした体験を地域住民の方にしてもらいたい。

### <大学関係者>

- 大学の合同による講座も検討したい。
- 他大学の学生がどんな専門分野でどんな活動をしているのかは、学生にとっては想像以上に興味があることであり、刺激となる。大学と協働センターの人的交流をもっと促進されたいと思う。
- この連携事業の機会を有効に活用していただいて、たくさんの市民の方との交流やつながりを持っていただきたい。そのためにも、たくさんの学生が参加できるよう、たくさんの講座が開設できるよう、各大学での働きかけや、協働センターからの希望の吸い上げなども行っていただきたい。
- 国家社会の牽引力となるようないろいろな経験をして頑張ってもらいたい。
- もっともっとアウトプットすること。他大学の学生と積極的にコミュニケーションを取ること。自分の専門分野以外の世界に、早期に暴露される機会をもつこと。
- 大学の特性を活かした講座。

### <浜松市職員>

- 事業を通じて感じたことを市や地域に提言などをしてもらえるとよい。
- 報告会に参加していた学生はとてもしっかりしていて楽しんでいるように感じた。今後いろいろなことに挑戦していただきたい。
- 子供向けの講座が少ないと感じているため、今後もたくさん協働センター事業に携わってほしい。
- 地域の研究機関として、地域をよくする提案を期待する。
- 素晴らしい経験を社会に出たから自信に変えてご活躍いただきたい。ありがとうございます。
- コロナ禍の影響もあって、参加者が減っていると聞いている。非常によい場であることをもっと PR して、多くの学生さんに参加してもらいたい。
- 本事業を成長のきっかけとしてほしい。
- 学生世代の方に講師をしていただく機会はなかなか無いため、地域でとても喜ばれる。学生も楽しんで、地域へ来てほしい。
- 大学生にしか考えつかないような面白いアイデアを期待している。若い人の発想が世の中を変えていくと思うので頑張ってください！
- 大学連携は素晴らしい取り組みで、他市町村に自慢できる。学生の工夫も素晴らしい。社会人になってからも役立つ経験だと思う。これからのものびのびとトライしてください！
- 浜松への定着化、就職。 ○地域の方と交流が沢山できるとよい。 ○迷わず進め！ ○若さ、元気。
- 地域の人たちに学生さんが学んでいることを出せる場所が今後よりたくさんできて、浜松を活気づけてほしい。よりいい経験を積んで自分を高めていってほしい。
- 大学連携を上手に活用して、よい経験をしてほしい。

<一般>

- 忙しい学業の合間を縫って、社会教育に係わっていただきありがとうございます。来年度も時間を見つけてご協力お願いいたします。
- これからも専門分野を子ども達に分かりやすく指導してもらいたい。学業との両立で難しいとは思いますが、講座開催の回数を増やしてもらいたい。
- これからも社会との関わりを大切に、専門性を活かした講座を開催していただきたい。
- 自分の知識と技能を高める努力に努めるとともに、人間関係力を身につけるためにも積極的に市民と関わってほしい。
- 地元出身者だけでなく、せっかく浜松市の大学にきている若者に浜松市のファンになってもらえるとよい。
- 高齢者サロンへの出向を検討してほしい。 ○多くの学生が、社会活動にでてほしい。
- このようなチャンスに積極的に関わる姿勢を持つこと。 ○世界で競う積極性、行動力
- 講座開催、参加してくれる学生に拍手を送りたい。
- 北部ジュニア公民館というものを耳にした。私は小学校の学校運営協議会に所属しているが、現代のコミュニティはとても脆く崩れやすいものだと感じている。この北部ジュニア公民館は、理想的なスタイルが確立されており、自分たちの地域にも取り組めたら素晴らしいと思った。その取りまとめ役を大学生が担い、子供たちのコミュニティが強い絆で結ばれることを望む。子供時代の基盤がしっかりとしていれば、大人になってもその効果は続く。そんな浜松の未来を期待する。そのために、学校単位もよいとは思いますが、協働センターを上手にを使って、幅広い交流で刺激し合うことも大切だと感じた。また、せっかく同じ浜松市内の大学なので、大学間で交流をもった活動も聞けると面白いなあと感じた。
- 地域交流、助け合い。 ○これからも今日のような内容で続けてほしい。
- 講座の回数を増やしてほしい。 ○大学生による浜松の活性化。

## 2022年度大学との連携事業意見交流会まとめ

### <成果>

- ・若い世代が講師となることが魅力的。
- ・協働センターに大学生など若い力が入ることは、いい刺激。
- ・大学生との交流が増える。 ・コミュニケーションがとれる。
- ・学生にとっても地域と交流できる貴重な機会。 ・子ども×大学生×高齢者 交流の場
- ・大学生世代の講師が地域にいないため喜ばれる。 ・若い世代と社会のつながり
- ・孫をみているようで嬉しい。 ・若い人と高齢者との交流ができる。
- ・学生にとっても交流できる貴重な機会。 ・日頃交流のない世代との交流が生まれる。
- ・地域とのコミュニケーションと学生がアウトプットする場となっている。
- ・発信できる。 ・伝えられる場。 ・教える事で、学生講師の理解も深まる。
- ・学校では経験できないことを経験できる。 ・学生にとっても大きな学びとなっている。
- ・大学で学んだことを地域に役立てることができている。
- ・大学で学ぶだけではなく、気分転換にもなっている。
- ・時間調整が難しかったが、良い経験ができた。
- ・多くの地域で活動できた。 ・浜松市広範囲での活動ができた。
- ・昨年度よりも多くの講座を開くことができた。
- ・コロナで活動が少ない中、大学連携が就活で大変役に立った。
- ・子供達が楽しみにしている。
- ・お兄さん、お姉さん、年齢近いと効果大。小中学生との交流は非常に良いことである。
- ・大学生の魅力は、小学生からも高齢者からも尊敬のまなざし。
- ・大学生は、お兄さんお姉さんの視線で小中学生は話を聞いてくれる。
- ・大学生と受講生の小学生や中学生は年齢が近い関係で共有できることがある。
- ・子供たちとのふれあいができる。
- ・学校の理科では、見ることが多い。理科（科学）を楽しみつつ、触れることは大切である。
- ・学生主体でやっていることがすごい。 ・大学生の成長を見られる。
- ・多くの学生講師が、丁寧にがんばっていて安心した。
- ・自分の興味の範囲を超えた分野の勉強ができる。 ・異文化への理解につながっている。
- ・最新の知見が得られる。 ・効果が実証されたものを取りいれて、どんどん新しくしている。
- ・大学生が地域に目を向ける。それは学生講師にとって大切なことである。
- ・講座の準備も、当日同様楽しくできた。
- ・他大学の取り組みを知る良い機会。
- ・いろいろな活動を知ることができてとても勉強になった。
- ・学生の生の声を聞いて大変良かった。 ・いろいろな大学の活動が聞いてよかった。
- ・年齢が離れていても、意見を交換することで学べる事や新しい発見ができる。
- ・実際に講座の一部が体験できて良かった。

## 2022年度大学との連携事業意見交流会まとめ

### <課題>

- ・ 事業継続
- ・ 実施可能な地域を拡大できるといい。
- ・ 講座数に限りがあり、開催場所が限られている。
- ・ 大学連携事業の講座は、抽選ではなく希望者全員が受講できると良い。 ・ マッチング
- ・ 子ども対象の講座が多いが、大人対象の講座が少ないのもっと増やしてほしい！
- ・ 小中学校で開催してほしい！
- ・ 情報をもっと回るように→年代に合わせて web 媒体/紙媒体
- ・ 人員が集まらない⇒情報の伝え方を改善。 ・ 募集の為のPR方法。
- ・ できるだけ多くの方に情報を届けたい。 ・ 連携事業を知るための窓口が必要。
- ・ 特別支援学級への広報（チャレンジへのハードル）←活動できる場所の充実必要。
- ・ 地域からの要望を大学へ伝える仕組みがほしい。
- ・ 日程調整が難しい。
- ・ 地域との関りを深める→浜松に還元する
- ・ 定員数や対象の見直し。
- ・ コロナ前に実施していた講座をまた再開したい。
- ・ 大学生との交流をさらに多くしていきたい。
- ・ 高齢者男性の参加促進。
- ・ 協働センター、学生、大学職員の関係性
- ・ 大学生にとって、”大人”が広すぎてイメージできない→細分化したら考えられる。
- ・ 自治体の防災訓練で講座を行う
- ・ 老人クラブの活動に、聞いたことを活かしたらよい。
- ・ ボッチャを浜松にひろめたい。老人クラブでもやりたい。
- ・ 協働センターの利用者は高齢者が多いので、大学生や小学生や中学生などの若い世代が協働センターで講座を行ったりするなど、交流できる機会を作り、今後も協働センターを利用してもらえるようにすることが、大切。
- ・ 大学間のつながりをもっと持ちたい。 ・ 大学同士の横のつながりが生まれるとさらに良い！
- ・ 大学間でのテーマ共有。
- ・ 運動系の講座でのけがへの対応。
- ・ 教える順番を考える。 ・ やさしい言葉をつかう。 ・ 参加する学年等でレベルを変える。
- ・ もっと難しい問題を考えるべきだった。 ・ 相手に合わせて、対応する。
- ・ 事前準備に関して⇒参加して下さる方に合わせて難易度を決める。  
対象の方の年齢層が重要（事前の共有必須）
- ・ 各々の得意・専門を生かして幅広い層と連携できたらよい。
- ・ 認知症の事、予防についてもっと知ってもらえるように後輩に受け継いでいきたい。
- ・ コロナ禍において活動の制限があり、後輩への引き継ぎが難しい。
- ・ プログラミングに興味のあまりない子にも、今回のような活動を広く知ってもらいたい。